

編集委員会からのお知らせ

既に『科学哲学』30巻編集後記で予告されている通り、今後学会誌年二回発行により、応募論文の「常時」受け付けを徹底することにします。そのため、11月29日の第一回新編集委員会において、『科学哲学』31巻以降の編集プロセス並びに論文応募要領を以下のように変更しましたので、お知らせ致します。

編集委員長 野本和幸

『科学哲学』編集プロセスについて

自由応募論文の扱い

- (1) 応募論文を受け付ける度毎に、審査手続きに入ります。
- (2) ブラインド・レフェリー制を実施します。
- (3) 掲載が決定した論文は、決定順に各号に割り当てます。

特集テーマへの応募論文

- (1) 従来通り、締め切りを設定します。期日については、その都度通知致します。

「論文応募要領」の変更について

次の(1)を従来の「応募要領」に追加し、英文論文の制限語数を6,000語以内と改めます。

- (1) ブラインド・レフェリー制を徹底するため、応募論文の著者名等は論文本体とは別紙とし(表紙のみに記入して下さい) 注、文献表等においても「拙著」、「拙論」のように著者を特定しうような表現の使用をできる限り避けて下さい。
- (2) 英文論文の制限語数は、6,000語(以内)とします。

Ian Hacking 教授講演会のお知らせ

Ian Hacking 教授講演会を下記の日程にて開催することとなりました。

皆様には御多忙のところまことに恐縮に存じますが、ふるって御参加下さいますようお願い申し上げます。

日本科学哲学会会長 坂本百大

記

日時： 1997年12月17日(水) 18:30 - 20:00

場所： 日本大学会館 8階 801会議室〔JR市ヶ谷駅徒歩3分〕

〔会場は、都合により「日本大学哲学研究会」という名称にて予約してあります。〕

講演者： Ian Hacking (University of Toronto: Canada)

講演題目： Is there *any* point in talking about social constructs in the Natural Sciences?

Hacking 教授は、科学哲学、言語哲学、数学の哲学、精神病理学をめぐる哲学的諸問題に関して造詣が深く、教授の代表的な著書としては次のものを挙げるすることができます。

The Emergence of Probability (Cambridge University Press, 1975)

Why Does Language Matter to Philosophy? (Cambridge University Press, 1975)

(邦訳：伊藤邦武訳『言語はなぜ哲学の問題となるか』勁草書房)

Representing and Intervening (Cambridge University Press, 1983)

(渡辺博訳『表現と介入』産業図書)

Rewriting the Soul (Princeton University Press, 1995)

会員以外の方の参加も歓迎致しますので、関心のある方をお誘いいただければ幸いに存じます。

編集後記

11月29日に開催された理事会において、学会誌『科学哲学』の年間2回発行に伴い、今後は、従来の形式の「ニュース・レター」の発行をとり止め、会員通知をすべて「ニュースレター」という名称にて行うことが決定されました。今回は、この理事会決定に従い、形式改訂後の第1号(通巻5号)を発行することになりました。会員の皆様が、今までの「ニュースレター」と併せて保存しやすいように、これまでのB5版という版型は踏襲しましたが、内容、形式、紙質等は変更いたしました。

「ニュースレター」の形式・内容等について、御意見・御希望がございましたなら、事務局宛お寄せ下さい。

〒156 東京都世田谷区桜上水3 - 25 - 40
日本大学文理学部哲学研究室内
日本科学哲学会事務局
tel. 03-3329-1151 (内線 4100)